

10 トルコギキョウの直播き栽培技術

ねらいと成果

トルコギキョウの直播きは移植時の植え傷みがないため、ロゼット株が少なくなり、根量も増加し生育が促進される。そのため、高温期を経過した晩夏から秋にかけて品質の良い切り花を収穫できる技術として有効である。また、種苗費や定植の労力も少なく、低コストで省力的な技術である。しかし、品種の選定や播種時期を誤ると早く開花し過ぎたり、ロゼット株が多発して収穫できなくなってしまう。

そこで比較的市場単価の高い9月以降の収穫を目的として、淡路地域に適した品種と播種時期について検討した。その結果、「マイテレディ」「マイテスカイ」「つくしの雪」を6月上中旬に直播きすることにより、9～10月にかけて収穫できることが明らかになった。

内容

① 播種日と品種

1998年5月15日、6月1日、6月15日、7月1日に「マイテレディ（白地ピンク覆輪）」「マイテスカイ（白地紫覆輪）」「つくしの雪（白）」「つくしの春（ピンク）」「つくしの波（白地紫覆輪）」の晩生5品種をガラス温室の深さ20cmの栽培ベンチに株間および

② 播種方法

播種はフラワーネットのマスの中に直径約2cm深さ0.5cmの穴をあけ、そこにコーティング種子を直播き（穴あけ播種法）し、薄手の白色不織布を被覆した。発芽までの灌水は不織布の上からハス口で適宜行った。この方法は灌水時、水が穴に流れ込むため、種子のある位置に確実に灌水が可能で、また、種子が転がることもなく、高い発芽率が得られ効果的であった。

施肥は元肥に有機配合化成肥料（8-6-8）を40kg/10a、液体化成肥料（14-8-16）の800倍を適宜追肥した。

③ 採花株率、採花日および切り花品質

播種日が遅いほどロゼット株が多発し、採花株率は低くなる傾向が認められた。特に7月1日播種では0.0～47.9%といずれの品種も極めて低くなり、播種日には適さないと考えられた。品種別の採花株率は「マイテレディ」「マイテスカイ」「つくしの雪」

が5月15日～6月15日の播種日において比較的高く有望であった（図）。これらの品種の採花日は5月15日播種は8月下旬とやや早くなり、6月1日及び6月15日播種で、目的とする9月上旬～10月上旬となった。切り花長は「マイテレディ」「マイテスカイ」は長く、「つくしの雪」は切り花重が重くなった。

今後の方針

本技術では栽培する品種がポイントになると考えられるので、さらに適した品種の選定が必要である。また、切り花のボリューム増加など品質向上のための肥培管理について検討する。

山中 正仁（淡路農技・農業部）

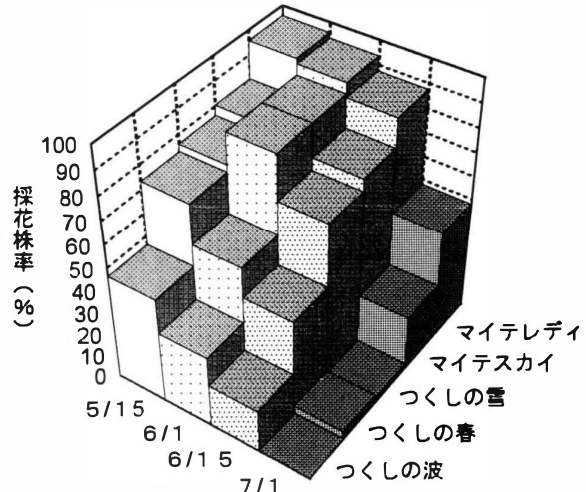


図 品種・播種時期の違いと採花株率

表 品種・播種時期と採花日および切り花品質

品種	播種日	採花日	切り花長 (cm)	切り花重 (g)
マイテレディ	5.15	8.21	66.1	27.1
	6.1	9.7	59.7	23.4
	6.15	9.14	70.5	39.1
	7.1	0.13	62.0	46.6
マイテスカイ	5.15	8.21	64.1	24.5
	6.1	9.2	64.5	26.8
	6.15	9.18	67.5	38.4
	7.1	10.29	72.4	66.5
つくしの雪	5.15	8.28	56.1	35.0
	6.1	9.14	58.7	42.1
	6.15	9.18	60.1	53.1
	7.1	—	51.0	70.0
つくしの春	5.15	8.24	60.5	27.5
	6.1	9.18	68.7	51.1
	6.15	9.21	70.5	53.4
	7.1	—	51.7	52.2
つくしの波	5.15	9.7	48.7	29.6
	6.1	9.25	50.9	36.3
	6.15	10.8	46.5	35.9
	7.1	—	—	—

注) 供試マスに数に対して採花株数が10%に達した月日を採花日とした